

8月15日現地ヘリ視察後の信州大学名誉教授北澤秋司先生のコメント

<白馬大雪渓崩落現場 ヘリ調査結果について>

[崩壊現場状況]

- ・今回崩壊した斜面（右岸側：大雪渓から山頂に向かって左側）は、左岸側と異なり、地質的にも、元々緩んでおり崩壊しやすい状況にある。
- ・縦の亀裂が卓越しており、上部の岩盤が倒れ込んだ崩壊であり、今回のような大規模崩壊は、頻繁には発生しないと考えられるが、現在の斜面も過去に何度も崩壊したところであり、再度の崩壊の拡大や新規の崩壊は、予測しがたい。
- ・ヘリからの目視によると、崩壊土砂は延長約 300m、幅約 50m 程度に下部に広がるように堆積しており、堆積厚は数mと想定されることから約 50,000m³と想定する。

[対応策]

- ・崩落土砂の大部分が雪渓上にあり、この場所での土砂流出対策は、現時点では技術的に困難であると考ええる。
- ・雪渓上の土砂が滑り出すことが考えられ、下流への土砂流出による二次被害の警戒が必要と考える。このため、しばらくの間監視することが望ましい。
- ・登山道の安全対策については、崩落土砂が滑り出すことを想定し、より安全な登山ルートの検討が必要と考えるが、登山者へは、崩落、土砂流出の注意喚起を行うとともに、これら監視情報の提供を行ってはどうか。

～北澤先生のプロフィール～

○北股入沢（ネブカ平）崩壊対策検討委員会（H12.5 設立）委員長

・委員会設置目的

北股入沢の白馬大雪渓上流のネブカ平付近において、登山道及びお花畑周辺の土砂崩落・浸食防止を図る為、対策について検討することを目的に、自然環境・砂防の学識経験者ならびに地元有識者をメンバーに発足。

・メンバー 白馬村、長野県、信州大学、国土交通省、
登山案内人組合、山小屋組合

○平成11年4月1日より信州大学名誉教授

○山地環境防災研究所 所長